

酒	田	の	港	と					
	水	路	が	お	り	な	す		
		親	水	空	間				
			シ	ン	ポ	ジ	ウ	ム	



**Greeting  
Message**

衆議院議員

加藤 鮎子 様



今日は酒田の港と水路がおりなす親水空間づくりのシンポジウムということで、このような温もりのある空間に、多くの方がお集まりになりましたことを、心よりお慶び申し上げます。

私も前回の衆議院議員選挙で当選したばかりの新人ではございますけれども、酒田のために必死に頑張りたいという風に思っております。選挙期間中も訴えて参りました地方創生・あるいは復興支援といった切り口で、酒田の港にも来年の予算が、2,314億円という形で大きく付いてございますので、色んな形で私も応援をして参りたいと思っております。

水ということでもう一つ明るいお話ですが、ついこの間まで仙台でやっていた国連の世界防災会議というのがありまして、防災にまつわる第3回目の会議を仙台で開かれました。今、東北から選出されている国会議員のみんなで、ダボス会議で毎回行われている様な防災会議を、仙台で定期的に行う世界会議として作ろうと声を上げているところです。

仙台の話ではありますが、防災という観点からすると対を為すようなウェストラインで結ばれるこの酒田港の重要性も、当然ながら世界に訴えていく素晴らしい機会になって参ります。そういった意味でウェストライン、それから酒田港の機能強化・インフラのところもしっかり責任を持って声を上げて参りたいと思いますし、この酒田が世界的にも親日度が高くなるような地域にしていきたいと考えておりますので、皆様方と協力して参りたいと思います。

この酒田が世界的にも親日度が高くなるような地域に  
していきたいと、皆様方と協力して参りたいと思っております

菊地 身智雄 様

Greeting  
Message

市民の皆様は港を身近に感じ、重要性を理解して  
いただけることを期待しております

酒田の港と水路のおりなす親水空間づくりシンポジウムが盛大に開催されますことに、心からお祝いを申し上げます。また、佐藤香奈子理事長をはじめとする関係者の皆様のご尽力に敬意を表します。

酒田港におけるシーカヤックは、NPO 法人元気王国のみなさまが中心となって、平成 25 年度から「みなとカヤックツーリング」として開催されており、市民の皆さんに酒田港を身近に感じていただく素晴らしい自然体験活動になっています。

港は、地域の産業活動や国民生活に欠かせない物流拠点ですが、地域の皆様から遠い存在になっている面もあります。シーカヤックや様々な海とのふれあい・自然体験などを通じて港を身近に感じ、港の果たす役割などについて理解が深まることを期待しています。

本日のシンポジウムは、各団体からの事例発表や、ダッシュ海岸でも有名な木村さんを交えてのリレートークなどが予定されていると伺っております。

今回のシンポジウムが実り多きものとなりますことと、ご出席の皆様のますますのご活躍をご祈念申し上げ、メッセージとさせていただきます。

Greeting  
Message

ホスピタリティ表現・おもてなしの表現がある街になるよう  
本日のシンポジウムが貢献することを期待しています

国土交通省酒田港湾事務所所長

清水 純 様



私は佐藤香奈子さんのシーカヤックにずっと参加させて頂いておりまして、どちらかと言うとそちらの立場の方が強いのかなと思っておりますけれども、一言述べさせていただきます。

先ほど国土交通省の港湾局の菊地の方からのメッセージがありましたが、酒田港の長期構想の中で、親水空間を活用した港まちづくりと言うことが書かれており、今日の活動事例紹介はそれを本当に最前線でやられている方の、まさしく事例なのかなという風に思っております。

そういった活動を国土交通省も、港湾局・整備局の幹部の方も非常に応援しているという風に私の方で聞いております。

これは私がずっとカヤックをやったの感想という話になりますけれども、普段仕事柄よく港の方を見るのですが、カヤックに乗ると、非常に水に近い目線から周りにはない空間で、鳥海山などの様々な自然、それから街を見ながら漕ぐわけです、やはり日頃見ている景色と全然違い異次元にいるかの様な気分になります。

その様な気分を味わいますと、やってる人はみんな楽しい気分になると思います。そして、そんな皆さんの姿が、見ている方も非常に楽しませるのではないかと私は感じています。

ある景観の大学の先生が、外から人が来た時にまた来たいと思う条件として、ホスピタリティ表現・おもてなしの表現がある街が非常に魅力がある、というお話があったのですが、まさしくそのホスピタリティ表現みたいなものだと感じておりまして、この様な活動がどんどん広がっていくことが非常に大事だと思い、本日のシンポジウムもそれらに貢献することを非常に期待しているところでございます。

若い人の海洋環境に勤しむ心が  
水と歴史のまち酒田を活気づけてくれる



本日のシンポジウムにお招きいただきましてありがとうございます。元気王国の皆さんには、シーカヤックの行事を行う際は法に基づいての許可申請が必要ですか、小煩いことを言ったりしております。実はそういう行事に参加したいなあと思っているのですけれども、許可する立場の人間がその中で楽しむのも如何なものかというのが現実的な立場となっております。

庄内浜の事故は例年10件ほどで推移しておりますが、去年は18件ほど起きてしまい、その内プレジャーボートの事故は8件ほどです。ただ、事故というのは起きてしまうもので、その中で山形や庄内の方が一所懸命に事故防止に取り組んで下さっており、今日も海洋少年団の後援会長さんにお越しいただいておりますけれども、人材の育成や若い人の海洋環境に勤しむ心を育てて頂いていることに、本当に頭が下がる思いであります。

今日のシンポジウムのレジュメを拝見しますと歴史の話にも触れており、酒田・庄内は本当に良いところだと感慨を覚える次第です。水と歴史との関係で申し上げますと、例えば庄内では義経が鼠ヶ関に上陸したとか、蜂子皇子が由良の海岸から入ってきたとか、酒田三十六人衆が酒田に入って港を活気づけてくれたとか、やはり各々のポイントで酒田の歴史・庄内の歴史というのが関係しているのかなと思っています。

私もここに来まして2年になりますけれども、引き続き末長くこちらで頑張りたいと思いますので、よろしくお願い致します。





ゴミの除去や下水道の普及など色々な形で今よりも良くなる  
水質を、今後につなげていけるようお願いしたい

港湾事業と言いますのは、大きな港湾施設については国から作って頂いて、県が実質の管理を行い、そして使用関係については酒田市と一緒にやっております。道路などと違って国と県と市、それからいろんな民間の方々と一緒に港を使って盛り上げて行くという少し特殊な組織になっております。その中で施設を使う場合には、我々も許可を出したりしなくてはならないのですが、佐藤理事長にはぜひお使いくださいと気持ち良く使って頂いたところです。

私もカヤックを是非やってみたかったですけれども、やった事がないのでまずは応援に徹しようと、ルアーの先にバスケットを付けて橋の上からパンを差し入れようと思ったんですが予想以上に重く、ルアーがしなり過ぎて新井田川の川面に落ちてしまったんです。気持ちのある方はそれを食べてくれるかと思ったのですが、やはり今の新井田川ではちょっと食べられないと言うことで…

酒田というのは新井田川・幸福川・豊川に囲まれ市街地をぐるっと周れるようになっておりまして、非常に良い環境だと思っております。さらにゴミの除去や下水道の普及などで、水質も今よりもっと良くなっていくでしょうから、それらを今後につなげていければと思っております。

私共の事務所は本港の脇にございまして、年中海辺を見るにつけ本当に水面というのは素晴らしいと感じる次第です。

是非本日のシンポジウムが成功裏に終わって頂いて、皆様にも水辺の素晴らしさを再認識いただければと思っております。今日はおめでとうございます。



親水空間の中身がより充実し、より広がりをもっていくことが  
本市の発展に直結するものと確信しております

「酒田の港と水路がおりなす親水空間づくりシンポジウム」の開催を心よりお祝い申し上げます。

港を中心とする大きな親水空間があるのは、山形県内でも酒田市だけの特徴であり、酒田市民の心のよりどころとしても貴重な財産となっております。

例えば、酒田港本港地区は、平成17年に国土交通省東北地方整備局より、「みなとオアシス酒田」として認定されました。本市では、このエリアを親水や憩いの空間として山形県とともに整備を行っております。現在では、このエリアにあるさかた海鮮市場やみなと市場、山形県海洋センターに市内外から多くの方々にお越しいただいているところです。

本シンポジウムをはじめ、様々な事業を通してこの親水空間の中身がより充実するとともに、より広がりをもっていくことが本市の発展に直結するものと確信しております。

今回のシンポジウムが、本市の親水空間づくりに対する一層の機運醸成に繋がること、また、今回主催されましたNPO法人元気王国様の益々のご発展をご祈念申し上げ、私からのメッセージとさせていただきます。



NPO 法人元気王国理事長

## 佐藤 香奈子 氏



今回は日本財団の「海に関する活動」という所のご支援を頂き、年間を通じて色々な形で活動をさせて頂きました。一番やりたかったのが、酒田の海から川に向かっての水路を一周できるんだという事を体感したいというのをメインに掲げまして、まずはカヤックの練習

会を年6回させて頂きました。これは酒田の水路を体感するのにカヤックを漕げない酒田の人間が多く、これではダメだと言う事で行われたものです。大浜はかなり堤防が手厚く、またはテトラポッドがありほとんど波が起りません。どんな風であっても波に影響がない空間で、初心者が練習するにはうってつけの場所です。本当に何度も使わせていただきました。この練習会は実は、朝の6時から7時までという時間帯に行い、「酒田ではカヤックを出勤前の朝活で出来る」ということを示したかったというのもあります。ツーリングの当日、参加者は艇数で言いますと約30艇、途中から参加する初心者の部というのも合わせ約35艇ほど、関東以北の様々なところからご参加頂きました。本港の外れからスタートし、酒田の港湾の一つの特徴である、漁港の機能を持った港からリサイクルポートまで、外側が全部堤防で覆われているという非常に静穏度が高い港なんだということが、カヤックに乗るとよく分かるという事も、体感したかったことの一つでした。



非常に気持ちよさそうに漕いでおられまして、この日は鳥海山もくっきりと見ることができ、素晴らしい山の景色や船を見ながら遊ばせて頂いておりました。カヤック自体の色が赤・黄・緑などとてもカラフルである事から、とても賑やかで面白い風景が繰り広げられていたのではないかと思います。

酒田市内は何本も橋が架かっておりまして、順番に橋を工事する期間になっておりますので、一つ一つの橋が市の管理だったり県の管理だったり違うんだという事もこの行事を通して知ることが出来ました。

また、車道からでは護岸の様子や植栽の様子はほとんど分からないと思うのですが、川からですと100%全て見えますので、新井田川の会さんが本当に誠心誠意頑張っておられるのだという事がよく分かりました。本当に感謝申し上げます。

港へ入りまさに一周して来た私たちに、海上保安庁の船が歓迎の水を撒いて下さったのですが、これは当然海水で、分かっている人間は遠く、なるべく浴びないように通ったのですが、初めてで喜んで浴びた方々は塩だらけになって帰って来たと言うことです。

私は酒田に住んで40年以上になるのですがけれども、こんな風に酒田の川と海が繋がっていて一周出来る地域なのだということを教えられました。発想的には私の発想ではなくて、ここにいるたくさんの方のご協力があり、この様なイベントを催すことが出来た事に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 原田 清廣 氏



新井田川は酒田市街地を還流し、四季を通して市民に潤いと安らぎを与えている川なのですが、市民の皆さんに広く関心を持っていただいているかと言うとそうでもなく、色々と問題がございます。

とりあえず新井田川ということについてちょっとお話をしますが、新井田川というのは県の管理の川で二級河川と言われております。境川・平田川・寺田川・幸福川・豊川と繋がりがあって、本流の方は本港に出ていますが、幸福川は途中から豊川という人工的に作られた川があって、河口が二つあるというのが特徴でございます。

昔は色々水路として重要であったのですが、傾斜が大変緩く水が停滞することが多くて、ちょっと雨が降ると冠水する川ということで大変問題だったんです。

そこで治水工事が行われ、昭和24年から県営工事・国営工事で計画的に成された訳ですが、洪水対策のために人工的に豊川を開削したり、最上川が増水すると上流の田畑が冠水するので、豊川を掘ったんです。

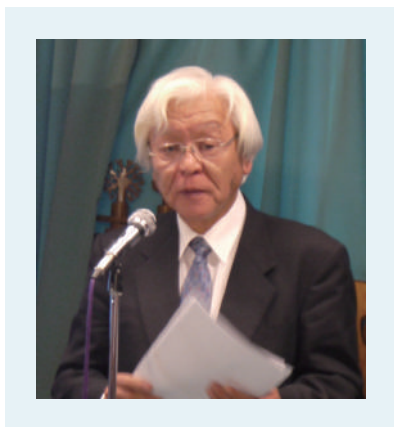


それから昭和45年に北港の開発が成され、砂浜に掘り込みをして港を作ったわけですが、その時に周回ができるようになったという特殊な川だと思います。昭和40年代・50年代になると急速に宅地になり、前は農家の人たちが馬や牛の飼料のためにちゃんと権利があって草を刈っていたわけですが、そういうことが無くなる事で草がぼうぼうになり、様々なゴミが投棄され、当時はまだ公共下水道の整備がずっと遅れてましたので、ほとんどの家庭排水が新井田川に流れ込むという状況で、いつも川面が油膜で覆われている状態でありました。

それで平成15年4月に急遽私どもの会が作られまして、作業を始めました。まずは草刈りを5月から10月まで毎月1回は必ず刈ることと、ゴミ拾い・花植えなどを行って、今では毎年3000株の花を植え続けています。この川を何とか活用した新しい川文化を作って他所にない酒田の港町づくりをしていくことがこれからの大きな目標ではないかと思っております。

当面の展望と致しましては、市民の皆さんに酒田の中を流れる新井田川に関心を持っていただいで、酒田の街づくりに何とか役立てて行ければ良いのではないかなと思っております。どうか皆さんよろしく願いいたします。

この川を活用した新しい川文化を作り他所にない酒田の港町づくりをしていくことがこれからの大きな目標



酒田海洋少年団後援会長

## 高橋 幸雄 氏

海洋少年団というのは、昭和26年の5月に戦後の青少年へ期待を込めて、全国で海洋少年団が設立され、酒田にもその同じ年に出来ており、当時は小中学校から選抜された子供達で構成

されていました。彼らを見るにつけ、純粋に伸びていく成長過程に於いて、我々大人がこんな状態でいいのかと思うことが度々あります。いつになっても終わらない戦争を終結させるとか、経済がうまく回るように消費をしていくとか、これからの子供たちが住みやすい環境に向けて変えていく努力をしなければならぬのではないかと強く感じます。

酒田海洋少年団の歴史についていくつかお話いたしますと、昭和61年の8月には全国海洋少年団の第35回大会が酒田で開催されまして、この時私達も青年会議所総動員で全面的に主管いたしました。市民の皆様にもご寄付や、全国から来た3150名の子供達をお風呂に入れて頂いたり大変なご協力をいただきました。市民をあげての歓迎は全国の大会の中でも歴史に残る、今でも語り草になっているほどのおもてなしでした。



その後もずっと活動は続いておりまして、酒田の場合は2500名ほどの卒業生がおり、結索やカッター・水泳など、様々な訓練を受ける子供達を見守る指導員として来てくれていると言うのが、本当に素晴らしいことだなと思います。

日向川という川がありますが、これは明治の初め今から160年ほど前にショートカットしまして、今の場所に抜けています。それ以前はどこにあったかと言うと、旧酒田工業高校・旧酒田北高校辺りの窪地は日向川の跡地です。7号線の陸橋の下の鉄橋がある場所で豊川と幸福川が合流しています。西暦712年に出羽国が建国されるのですが、その頃小湊に最上川が流れ出ていて、それで港がある出羽作に建国されたのではないかとされておりまして。船が30～40隻並べられていたと日本書紀にも記述があり、そういう意味でも川と本港を一周するコースは、歴史的にも意味のある水路だと思えます。

雑感を申しますと、酒田海洋少年団というのは湊町酒田にある県内唯一の海洋少年団で、縦の繋がりがきちんとしていて面倒をみたりみられたりしながら、海と共に皆さんのお子さん・お孫さんが育つにはとても良い環境ですので、日曜日に是非楽しんでいただければと思います。

## 加藤 明子 氏



Relay  
Talk

私達市民が「酒田が期待されている港町像と云うのは  
どういふものか」を考える一つの契機になれば

私ども市民会議の役割というのは、港や水路とそこに住む人々、周りの人々を結びつける役目なのかなと思っておりますが、今年度ちょっと風変わりな事業を致しましたので、皆様にご報告をさせて頂きたいと思えます。皆さんは酒田駅前にあります本間美術館のことはよくご存知のことと思えます。実はあちらの清遠閣の窓から見る鶴舞園は、鳥海山を借景とした庭園として有名で、それを多くの県外の観光客の方が楽しみに来られるのですが、庭園越しに山並みが見えて欲しいところに、とあるカラオケ店の看板が見え、美術館の方にもかなりの苦情が寄せられていたということです。ただ、この看板に罪がある訳ではなく、きちんと景観法に則ったサイズのものでした。勿論美術館サイドでも何とかこの景観を守りたいと言う事で、カラオケ店に申し出を何度かしたそうなんですけれども、その看板の設置に多額の費用が掛けられている事から、なかなかその撤去・回収は難しいということで、話が止まっているということでした。



それを解決できるのは市民会議ではないかとのお話を頂き、山形県の社会貢献基金を使えば何とかなるかも知れないと言う事で、早速取り掛かったのが去年の今頃のことでした。そして無事基金の採択を受けました事と、カラオケ店の店長様にも故郷の景観を守りたいという気持ちがお有りで、私達の事業に賛同して下さいました事に寄りまして、酒田の景観が一つ守られたわけですが、これから先の港町づくりというのはどの様にあるべきかということを考えさせられる事業でありました。

この看板一つが低くなったと言うだけの事業ではなく、私達市民が、酒田が期待されている港町像と云うのはどういうものなのだろうと言うことを、考える一つの契機になればいいなと思っております。事業の方はこの年度を以って終了ですが、これからの課題として私達市民会議の活動の一環として残っていくものではないかと思えます。



## Relay Talk

酒田らしさとは何なのか・どうして酒田の人たちはこういうところに街を作っていたのか、ということ振り返ってみる必要性があるのではないかと



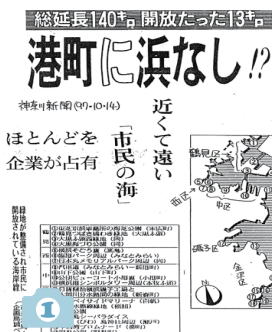
NPO 法人海辺つくり研究会

## 木村 尚氏

親水とは元々どんなものだったのかなと考えた時に、私は環境問題に身を置いているのでどうしても原風景という話になるのですが、いわゆる森があって塩性植物体があって干潟があってその先に浅いところがあって藻場があるという様な見事なエコトーン（陸域と水域の境界になる水際のこと）ができている所というのは

東京湾近郊にももうほとんどありません。元々の原風景というものをまずちゃんと念頭に置くことが大切ではないのかと。酒田らしさとは何なのか・どうして酒田の人たちはこういう所に街を作っていたのか、ということをもう少ししっかり振り返ってみる必要性があるのではないかと思います。

酒田に来ると恵まれていると思うんです。横浜の海岸線の総延長は140kmありますけど、海辺に出られるのはたった13km。①それも上から眺めるだけです。海辺に出られるのは、野島という自然海岸が残っているうちのたった500mなんです。それから埋め立ての時に代償として作られた人口海岸が約1kmある。そうですね、1%なんですよ。この約1.5kmを横浜市の人口は365万人いますから、一人当たりで割ると0.4mmなんですね。こんな寂しい親水は無くて、これでは「港町横浜？馬鹿じゃないの？」という話になっていってしまうんです。



② 広島のと田川ってところなんです、川への下りやすさ・上りやすさを両方考えなければいけません。ここは水が近いんですが柵はありません。落ちてもし上りやすいような状態になっているわけです。

昔、例えば隅田川なんかで直立の護岸があって、斜面があって、ちょっと高さがある、水面があるようなところでは、落っこちた人が絶対上がれないんです。だから、下りやすさ・上りやすさはよく考えておいたほうがいいと思います。

また、安全を考えて全く水を張ってない池というのがあります。本当は生き物のために作った池なんです、子供達の安全を考えて池から水を抜いています。残念でならないですね。

③ 九州では、治外法権なんじゃないかなって思うくらい面白いことをやっています。ダムなんです、渇水時に水が溜まるようにダムの中を棚田状にしてあるんですね。国土交通省ってやる気になりや出来るんだあって思いませんか？生き物のためにそんな工夫をしている訳ですから、凄いことだなと思います。

もう一つ考えなければいけないのが、人間だけではなく自然の領分も両方考えなくてはいけないよねということです。葛西臨海公園の例ですが、東なぎさと西なぎさがありまして、東なぎさの方は自然の領分で人間が立ち入ってはいけないところ。西なぎさは人が遊べる場所として住み分けをしています。



また、東京で生まれた子供達が故郷を誇りに思えるような場所を作りたい、「俺の故郷にはフジテレビがある」ではなく「俺の故郷では海苔があっていい海なんだよ」と言えるようにしたいという事で、お台場の子供達が東京湾で海苔を作る活動をしています。ここで採れる海苔はおそらく東京湾内で一番質の良いものだと思います。

次にゴミの話。京都の丹後半島の海岸では、拾ったゴミを持っていくと駐車場代がタダになる。拾ったゴミが入場券代わりになるコンサートもやっています。そうやって海岸を綺麗にする。漁師さんは海岸の景観のために網小屋を撤去しました。ここは、漁協に2千円払うと一日中潜って獲り放題という面白いこともやっています。漁師が歳をとって獲物を獲れなくなってきているので、それだったらお金を払ってもらって好き勝手に獲ってもらおうよ、ということをして日本で初めて始めたところ。こういうことをやることによって、浜が活性化していき、結果ゴミのない海岸が出来上がるということです。

地域の伝統を取り入れていくこともとても重要で、酒田は商業港ですから桜の季節に熊本のうたせ船のような艀舟(ろぶね)を流したら、きっと素敵だろうなと思います。我々も艀舟を作りまして、④というのも実は、年をとった昔の漁師さんはなかなか子供たちと会話をする機会がないので、子供たちに海のことを教える機会が無い。これが一隻あったら、漁師が艀舟を漕ぎながら子供たちと色々話ができるだろう、と作った舟です。



これ⑤は熊本の色んな素材で試行・実験をしている干潟です。川ってすごいなって思ったんですが、ヨシ原を復元させようとして川ってこんなことやっちゃっていいんだって、これは球磨川ですね。ヨシは自然の力で生えてくるのを待っています。こういう高さで石積みをして、その上に土砂を乗っけて、ここまでやってしまっているんだなという…

これ⑥はダメな方の例で横須賀なんですが、そもそも人を入れる気があるのかって。なんとなく言われたからやりましたって。これじゃ生き物も人も入れないよなって。

それから、プラットホームになるような場所って絶対に必要です。それを水際にどう作っていくってあげること必要になってきます。私は生物多様性ってことについて話すことが多いのですが、実は生物多様性の中にも色んな話がありまして、こういったことも含めて生物って多様になっていくんだってことも知らなきゃいけないですし、やはり地域の資源について色んな立場の方が情報を出し合って、みんなでやっていくことが必要なのかなと思います。

やっぱり皆さんの人格形成ってというのは、酒田の持つ自然がきっと作っているはずなんです。ですから、酒田らしい・酒田の独自のものを作っていくって頂くことを期待したいということで、私のお話は終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。